

第2回 神奈川県営水道懇話会 専門部会 議事要旨

日時・平成28年3月29日

場所・都道府県会館 神奈川県東京事務所 会議室（東京都 永田町）

部会員・作新学院大学経営学部教授 太田 正

公益社団法人日本水道協会調査部調査課長 渋谷 正夫

新日本有限責任監査法人 シニアマネージャー公認会計士 高橋 晶子

日本大学経済学部教授 沼尾 波子

（五十音順・敬称略）

1・議事内容

- ・専門部会における検討項目について
- ・水道料金体系のあり方について

2・主な意見（要旨）

- ・ アセットマネジメントの考え方で、現在の施設能力と、実際の使用量があって、使用量が今後の給水人口の減少の中でどう変化していくのかを検討した上で、今後の施設能力を考えていかないといけない。料金体系や料金水準もこれらとの兼ね合いで考えていく必要がある。
- ・ 人口推計等の結果を踏まえた今後の水需要をもとに、今後の水道経営について検討できればいいと思う。また、低所得者世帯の減免の廃止や、今後の高齢単身者世帯が増えてきたときに、この方々に対する料金の値上げについては、摩擦があると思う。
水需要の話と料金表のどのあたりをどのように上げるのか、理論的なあるべき姿と現実的な姿を整理できればよいのではないか。
- ・ 水道使用者間の固定費負担の差を縮めていくと、おそらく少量水量使用者の場合は固定費負担の比率が高まると思う。大口使用者については、どの辺の水量ランクの固定費負担の比率が一番低く、どこに加重がかかっているのかという様な事も確認した上で、料金表のどのあたりを狙いにして固定費負担の比率を見直すのか、そういうところを考えていくと良い。